



TITLE:

日本人骨盤内臓器ノ局所解剖學的研究 (承前)

AUTHOR(S):

千葉, 忠恕

CITATION:

千葉, 忠恕. 日本人骨盤内臓器ノ局所解剖學的研究 (承前). 日本外科宝函 1928, 5(5): 1088-1104

ISSUE DATE:

1928-09-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/200159>

RIGHT:

日本人骨盤内臓器ノ局所解剖學的研究

（承 前）

The Examination About The Topographical Anatomy

Of The Pelvic Viscera In Japanese.

By

Dr. C. CHIBA.

From the Anatomie Institute of the Kyoto Imperial University (Director: Prof. Dr. B. Adachi)

京都帝國大學醫學部解剖學教室(足立教授指導)

大學院學生 醫學士

千

葉

忠

恕

(ロ) 年齢的關係ヲ見ルニ成人ニ於テハ老者ト壯者トノ間ニ特ニ差異アルヲ見出ス能ハズ(第十二表參照)。

初生兒ニ於テ其ノ月齡ニヨリテ關係アルヤヲ見ルニ無彎曲ハ胎兒ヨリ生後六日間迄ノモノニ於テハ生後一ヶ月ヨリ六

ヶ月迄ノモノニ於ケルヨリモ比較的多シ。即

チ前者ニテハ一例中五例、後者ニテハ五例

中一例ナリ。(第十三表參照)

(ハ) 性ノ關係ニ就テ云ヘバ男女共ニ彎曲

ガ多ケレドモ女ニ特ニ多キガ如シ。(第十四

表參照)

(ニ) 虛盈ニヨル關係ニ於テハ直腸虛時ニ

ハ彎曲數ヲ増シ、其ノ盈ニ至ルニ從ツテ彎曲

數ヲ減ズル如キ傾向アリ。(第十五表參照)

第十二表 (附表(三)參照)

A型+B型		老者ノ例數 (40-82歳)		壯者ノ例數 (16-37歳)	
三彎曲		0		1	
二彎曲	著明	3	7	4	11
	不著明	4		7	
一彎曲		2		3	
計		9例		15例	

第十四表 (附表(三)參照)

A型+B型	女	男
三彎曲	0	1
二彎曲	14	4
一彎曲	3	2
計	17	7

第 十 三 表 (附表(三)参照)

No.	性 別	生 後 日 数	軀 幹 長 (耗)	臍 帶 ノ 有 無	彎 曲 数
(65)	♀	6ヶ月胎児	160	(+)	無 彎 曲
59	♀	10ヶ月胎児	270	(+)	同
57	♂	同	280	(+)	二 彎 曲
54	♀	同	300	(+)	無 彎 曲
62	♂	同	300	(+)	二 彎 曲
61	♀	同	310	(+)	同
49	♂	生後3日間 (月齡10ヶ月)	250	(+)	無 彎 曲
50	♂	生後4日間 (月齡10ヶ月)	320	(+)	一 彎 曲
28	♀	間	不 明	不 明	同
64	♀	生後6日間	300	(+)	無 彎 曲
51	♂	同 (月齡10ヶ月)	340	(+)	一 彎 曲
52	♂	生後1ヶ月	330	(-)	三 彎 曲
53	♀	生後2ヶ月	270	(-)	無 彎 曲
58	♂	生後3ヶ月	370	(-)	一 彎 曲
60	♂	生後6ヶ月	330	(-)	二 彎 曲
48	♂	同	380	(-)	同
63	♀	不 明	280	(-)	同
55	♀	不 明	320	不 明	一 彎 曲
56	♀	不 明	320	(-)	同
47	♂	不 明	380	(-)	二 彎 曲

胎児乃至生後6日迄ノ 11例中
 生至五 無 彎 曲 1例
 後六例 一 彎 曲 1例
 一ケ月中 二 彎 曲 2例
 一ケ月迄 三 彎 曲 1例
 乃ガ

(其他月齡不明 4例)

三、直腸各部ノ正中線ニ對スル偏位

備考、正中線ニ對シ直腸ノ全幅ガ之レヨリ左方又ハ右方ニ位スル場合ニハ、正中線ヨリ最モ近キ距離ヲ測リ、直腸ガ正中線上ニ在ルモノハ正中線ヨリ直腸ノ左右壁迄ノ距離ヲ測リテ、其ノ額面上ニ於ケル偏位ヲ定メタリ。(以下附表(四)参照)以テ左ノ結果ヲ得タリ。

第十五表 (附表(三)参照)

A型 + B型	虚	稍盈中等度盈	盈
三 彎 曲	1例 No. 44(♂)	0	0
二 彎 曲	11例 No. 42(♂) No. 45(♂) No. 41(♂) No. 4(♀) No. 13(♀) No. 26(♀) No. 5(♀) No. 10(♀) No. 23(♀) No. 25(♀) No. 27(♀)	6 例 No. 9(♀) No. 3(♀) No. 8(♀) No. 15(♀) No. 2(♀) No. 14(♀)	1 例 No. 40(♂)
一 彎 曲	2例 No. 42(♂) No. 46(♂)	0	2 例 No. 11(♀) No. 20(♀)
計	14例	6 例	3 例

第五卷

【原著】

千葉

附 表 (四)

直腸ノ額面上ノ偏位				直腸薦骨部矢狀彎曲頂 (後方凸曲)ノ位置				S字狀腸ト直腸 トノ境ノ状態		直腸ノ長サ及ビ 太サ				初生兒S字腸ノ長サ(耗)
番 號	彎曲部並ニ下方正中線 上ノ部分	直腸ノ 幅		正中線トノ最モ近キ(耗)	骨盤後壁ニ對スル高サ	矢狀彎曲頂ト同高ナル	肛門ヨリ測レル直腸ノ長(耗)	廣狹状態 (2×10) (前後徑 ×横徑) ヲ示ス (耗)	廣狹 上下ニ於ケル腸内腔ノ	後壁ニ沿 フテ測ル		下部最大 腸於テ最 大ナル太 サ		
		正 中 線 ヨ リ 左 右	平 距 離 ノ 地 耗							直腸全長(耗)	部ノ長サ 門サ(耗)	前後徑(耗)	左右徑(耗)	
		右	左											
2	{ 左下 I 部	— 25	35 20	0 —	Ⅲ S	左 I 下界	70 1.7:1	(20×10)	{ 上下 狹廣	190	15	40 52 (1:1.3)		—
3	{ 左下 I 部	— 25	17 20	0 —	(Ⅲ・Ⅲ) S	左 I 下界	100 0.7:1	鉛筆大 (收縮狀)	{ 上下 狹狹	165	15	20 40 (1:2)		—
4	{ 左下 I 部	— 20	35 28	25 —	V S. I C	左 I 中央	72 1.4:1	狹	{ 上下 狹廣	170	12	15 50 (1.3:3)		—
5	{ 左下 I 部	20 35	10 25	— —	I C	下正中線部ノ上部	73 1.1:1	同	{ 上下 狹	157	17	16 55 (1.3:4)		—

6	—	—	—	—	(Ⅲ·Ⅵ)S		85	—	—	—	—	—	—	—	—
7	{ 左下	I 部	— 30	25 30	12 —	(Ⅳ·Ⅴ)S 下部正中線ノ上部	65	1.1:1	狹	上下}	狹	135	20	23 60 (1:2.6)	—
8	{ 左下	I 部	— 20	25 30	10 —	(Ⅲ·Ⅴ)S 左 I 上方	95	0.6:1	示指頭大 (10×7) (收縮狀)	上下}	狹	150	20	20 60 (1:3)	—
9	{ 右下	I 部	25 25	20 35	— —	— 左 I 中央	85	1.2:1	狹	上下}	廣	190	25	15 55 (1:3.3)	—
10	{ 左下	I 部	— 20	20 20	8 —	V.S 左 I 下界	90	0.7:1	同	上下}	不明廣	150	15	15 45 (1:3)	—
11	{ 右下	I 部	— 45	— 45	— 40	(Ⅱ·Ⅲ)S 左 I 中央	100	1.2:1	鉛筆大 (收縮狀)	上下}	著明廣	220	25	55 90 (1:2.2)	—
13	{ 左右下	I 部	— 25 20	20 23	10 0 —	V.S. I C 右 II 下界	70	1.7:1	狹	上下}	狹廣	145	25	20 45 (1:2.2)	—
14	{ 最上左下	I 部	25 10 22	— 40 22	8 —	V.S 左 I 下界	80	0.9:1	廣	上下}	廣	155	15	30 60 (1:2)	—
15	{ 左下	I 部	— 35	20 38	15 —	I.C 左 I 下界	85	1.1:1	小指頭大 (收縮狀)	上下}	狹	180	30	20 60 (1:3)	—
20	{ 右下	I 部	— 45	— 35	— —	V.S 右 I 下界	100	1.5:1	(15×15)	上下}	甚廣	245	25	40 80 (1:2)	—
23	{ 左下	I 部	— 18	20 40	25 —	— 直腸下界	115	0.6:1	鉛筆大	上下}	狹	180	13	30 55 (1:1.8)	—
25	{ 左下	I 部	— 35	25 20	5 —	V.S. I C 左 I 下界	78	1.1:1	(10×13) 環狀	上下}	廣	170	20	30 65 (1:2)	—
26	{ 左下	I 部	— 30	40 50	25 —	Ⅲ.S 左 I 下界	90	0.5:1	狹	上下}	狹廣	135	20	55 80 (1:1.5)	—
27	{ 左下	I 部	— 40	12 35	17 —	(Ⅲ·Ⅴ)S 左 I 下界	85	1.6:1	狹	上下}	狹	135	15	50 90 (1:1.8)	—
40	{ 左下	I 部	— 35	40 35	15 —	(I·II)S 左 I 下界	120	0.8:1	廣(著明)	上下}	廣	220	20	60 70 (1:1.1)	—
41	{ 右下	I 部	15 15	— 20	5 —	(Ⅲ·Ⅴ)S 右 I 下界	105	0.5:1	狹	上下}	狹	160	20	15 30 (1:2)	—
42	—	—	—	—	—	V.S 左 I 下界	100	0.7:1	廣	上下}	廣	170	20	15 60 (1:4.0)	—
43	{ 右下	II 部	30 20	— 25	0 —	I.C 右 II 中央	80	1.1:1	狹	上下}	狹	165	25	20 35 (1:1.2)	—
44	{ 右左下	I 部	13 — 30	— 35 30	15 7 —	V.S 左 II 中央	90	0.6:1	狹	上下}	狹	155	13	25 55 (1:2.2)	—
45	{ 左下	I 部	— 7	33 34	0 —	V.S. I C 左 I 下界	87	0.8:1	狹	上下}	廣狹	155	20	12 35 (1:3)	—
46	{ 左下	I 部	— 27	35 40	13 —	(I·II)C 左 I 下界	70	1.4:1	狹	上下}	狹	155	15	35 65 (1:3)	—
32	{ 左下	I 部	— 18	16 18	6 —	(Ⅲ·Ⅴ)S 左 I 下界	60	0.8:1	狹	上下}	狹	110	7	13 40 (1:3)	—

31	{ 左右下 } I部	— 20 —	18 — 15	6 0 7	Ⅲ.S 右Ⅱ中央	50 0.6:1	狹	{ 上下 } 狹	80	10	12 30 (1:2.5)	—
28	{ 右下 } I部	18 8	— 8	0 —	V.S. IC 右I下界	33 1.4:1	—	—	80	6	—	—
53	大部分	10	10	—	(鈍弓(後方凸)ヲ以テ 下ル肛門部ニテ後方ニ 曲ル)	—	—	—	80	7	—	165
54	同	7	7	0	(同.....)	—	—	—	80	8	—	115
55	{ 左下 } I部	— 7	3 7	15 —	(Ⅱ・Ⅲ)S 左Ⅰ中央	60 0.5:1			90	7		140
56	{ 左下 } I部	— 6	10 6	0 —	V.S. IS 正中	35 1.3:1			80	6		100
59	{ 上下 } 部部	13 13	5 5	— 0	(子宮大ニシテ直腸ヲ壓迫 シ矢狀彎曲及ビ額面彎曲) 不明				75	9		150
61	{ 左右下 } I部	— 8 5	8 — 3	0 5 —	(同)				65	5		100
64	{ 上下 } 部部	16 4	— 4	0 —	(鈍弓狀ニ肛門ノ上界ヨリ 下方ニ向フ)			{ 上下 } 狹廣	80	5	10 19 (1:2)	135
63	{ 右右下 } I部	— 2	7 9 3	5 0 —	V.S 右Ⅱ中央	50 0.3:1			65	5		140
47	{ 右下 } I部	16 5	— 5	0 —	(Ⅲ・V)S 右Ⅰ中央	40 1.1:1			85	10		140
48	{ 右下 } I部	13 10	— 12	0 —	(Ⅲ・V)S 右Ⅰ中央	45 0.3:1			60	7		—
49	{ 上下 } 部部	15 7	8 7	— —	(後方凸ノ鈍弓狀ニテ下行) (ス)				70	6		—
50	{ 右下 } I部	13 9	— 9	0 —	(Ⅲ・V)S 右Ⅰ中央	35 0.7:1			60	8		—
51	{ 右下 } I部	— 10	— 10	— —	V.S. IC 正中上部	25 1.8:1		{ 上下 } 廣	71	6	13 22 (1:1.7)	—
52	{ 右左下 } I部	13 — 7	10 7 —	0 8 —	Ⅲ.S 左Ⅱ中央	50 0.4:1			70	不明		—
57	{ 左右下 } I部	— 10 5	6 — 5	0 — —	(Ⅱ・Ⅲ)S 右Ⅱ中央	40 0.5:1			55	5		130
58	{ 左下 } I部	— 3	6 7	13 —	Ⅲ.S 左Ⅰ下界	45 0.3:1			60	8		160
60	{ 右下 } I部	8 4	— 4	3 —	V.S 右Ⅰ中央	35 0.6:1			55	7		150
62	{ 左右下 } I部	— 10 4	7 — 4	10 0 —	Ⅲ.S 右Ⅱ中央	35 0.4:1			50	5		150

直腸額面彎曲圖及ビ實地測定トス

(イ) 直腸ガ正中線ノ左又ハ右ニ於テ彎曲ヲ形成セル場合

直腸全幅ガ正中線ヨリ右又ハ左ニ偏シ且ツ其ノ彎曲頂ヲ右又ハ左ニ向ケタルモノ即チ右方突曲部又ハ左方突曲部ノ偏位ヲ觀察スルニ成人ニテハ左方突曲ハ右方突曲ヨリモ彎曲回数モ多ク又其ノ偏位モ大ニシテ著シキモノニハ正中線ヨリ腸壁迄ノ距離二五耗ヲ算スルモノアリ。小兒ニ於テモ左方突曲ノ偏位ハ右方突曲ノソレニ比シ大ナリ。初生兒ニ於テハ左右ノ突曲偏位ハ稍々成人ノソレニ類似スレドモ彎曲回数ハ左右共大差ナシ。(第十六表參照)

(ロ) 直腸ガ正中線上ニアル場合

成人ニ於テハ左偏セル程度ガ右偏セル程度ヨリ大ナル場合最モ多シ、初生兒ニ於テハ左右大差ナク直腸ガ殆ンド正中線ニヨリ折半セラル、場合最モ多ク成人ト其ノ狀態ヲ異ニス。(第十七表參照)

上述(イ)(ロ)ヨリ綜合スルニ成人ニ於テハ直腸ハ全長ニ亘リテ右偏セルモノヨリ左偏セルモノ比較的多シ初生兒ニ於テハ寧ロ左右ノ

第十六表 (附表(四)參照)

	額面彎曲ノ部位	偏位(最小-最大)(耗)	No.
成人 (23ヶ彎曲)	左方突曲部	0-15.....13回 16-25..... 5回	2. 3. 7. 8. 10. 13. 45. 15. 25. 40. 42. 44. 46. 4. 11. 23. 26. 27.
	右方突曲部	0-15..... 5回	13. 14. 41. 43. 44.
小兒 (4ヶ彎曲)	左方突曲部	6- 7..... 2回	32. 31.
	右方突曲部	0- 5..... 2回	31(I) 31(Ⅲ)
初生兒 (20ヶ彎曲)	左方突曲部	0-15..... 9回	54. 55. 52. 57. 58. 56. 61. 62. 63.
	右方突曲部	0- 5.....11回	28. 61. 63. 64. 47. 48. 50. 52. 57. 60. 62.

第十七表 (附表(四)參照)

正中線ヨリ左右腸壁迄ノ距離	成人及小兒		初生兒	
	例數	No.	例數	No.
右>左	7例	2. 3. 5. 9. 20. 25. 27.	2例	59. 61.
右<左	13例	4. 8. 9. 13. 14. 15. 23. 26. 41. 42. 43. 45. 46.	4例	63. 48. 50. 58.
右=左	7例	7. 10. 11. 14. 40. 44. 32	14例	28. 53. 54. 55. 56. 64. 47. 49. 18. 51. 52. 57. 60. 62.

偏位程度ニ大差ヲ認メズ。Stennington (1912) ハ曰ク「直腸ハ全長ニ亘リテ正中線ニアル例ハ稀ニシテ普通ハ正中線ノ右又ハ左ニ偏ス」ト。之レ予ノ調査ト稍々相似タルモ予ノ場合ニテハ特ニ左偏セルモノ多キヲ示セリ。

四、直腸額面彎曲各部ノ高サ

備考、直腸額面彎曲ノ投寫圖ニ於テ直腸中軸線ノ爲ス額面彎曲各部ノ骨盤ニ對スル高サヲ調査セリ。

直腸ノ各彎曲部ノ頂點乃至左右ノ彎曲形成後、正中線上ニ交叉スル部位等ノ骨盤ニ對スル高サハ甚ダシク不規則ニシテ且ツ複雑ナリ。故ニ予ハ詳細ナル表ヲ以テ示スコトヲ避ケ只其ノ大要ヲ記載スルニ止メント欲ス。

成人ニ於テ觀ルニ最も多數ヲ占ムル(A)型二彎曲ノ場合ニテハ左方突出頂ハ薦骨岬乃至第一尾閥骨間ニ至リ、右方突出頂ハ第二薦骨乃至第二、第三尾閥骨間ニ亘ル。而シテ下部正中線ニ戻ル高サハ第五薦骨以下トス。次ニ比較的多ク見ル(A)型一彎曲ニ於テハ左方突出頂ハ第二薦骨乃至第二、第三尾閥骨ニ亘リ、下部正中線ニ戻ル高サハ第五尾閥骨乃至ソレ以下ノ部位ニ於テス。而シテ(B)型一彎曲ニ於テハ右方突出頂ハ第一、第二薦骨間乃至第五薦骨ニ亘リ、下部正中線ニ戻ル高サハ第四尾閥骨ノ高サトス。

初生兒ニ於テ見ルニ(A)型二彎曲ニ於テハ左方突出頂ハ第一薦骨乃至第三、第四薦骨間ニ亘リ、右方突出頂ハ第三薦骨乃至第五薦骨間ニアリ。而シテ正中線ニ戻ル(下部ニ於テ)高サハ第一尾閥骨乃至第三尾閥骨ニ亘リ。(A)型一彎曲ニ於テハ其ノ左方突出頂ハ第二、第三薦骨間乃至第三薦骨ニ亘リ、下部正中線ニ戻ル高サハ第四薦骨乃至第四、第五薦骨間ニ在リ次ニ(B)型一彎曲ニ於テハ其ノ右方突出頂ハ第一、第二薦骨間乃至第五薦骨下端ニ亘リ、下部正中線ニ戻ル高サハ第二薦骨乃至第一尾閥骨下端ニ在リ。以上ヲ通覽スル時ハ初生兒ハ成人ニ比シ各彎曲部位ガ一般ニ高位ニ在ルガ如シ。

直腸ノ下部ニ於テ正中線ニ戻ル高サニ就テハ Kohlrausch ハ第二尾閥骨トシ、Solartia ハ最下尾閥骨ノ下端ナリトセリ H. Seilheira ハ女(成人)四例ノ正中斷ニ就テ調査シ、第五薦骨下端、第三、第四薦骨間、第四、第五薦骨間ノ下方四厘、尾閥骨最下端等ト記載セリ。予ノ例ニテ最も屢々見ル(A)型二彎曲乃至(A)型一彎曲ニ就テ見ルニ第五薦骨乃至會陰部ニ亘

リテ殆ンド以上諸家ノ記載ト大差ナキヲ知ル。

第五項 直腸薦骨部矢狀彎曲

一、彎曲頂ノ位置

備考、以下述アル處ハ正中斷圖並ニ實測ヨリセルモノトス。(附表(四)参照)

成人ニ於テハ第一、第二薦骨間乃至第一、第二尾間骨間ニ在リ。
多數(二三例中一四例)ハ第四、第五薦骨間ニ亘リテ存ス。初生兒ハ成人ヨリ一椎骨内外丈高位ニ在リ。(第十八表参照)

二、額面彎曲トノ關係

成人ニテハ額面彎曲ニ於ケル(A)型ノ左側彎曲ノ下界ガ骨盤部矢狀彎曲頂ニ當ルモノ最モ多シ(二三例中一二例)。即チ此部ニ於テ側方ト同時ニ後方ニ直腸ハ突曲ヲ形成スルモノナルヲ知ル。

初生兒ニ於テハ殆ンド矢狀彎曲ヲ形成セズ。只前方ニ凹面ヲ向ケタル鈍弓狀ノ曲線ヲナスモノ多シ(一八例中六例)此ノ如キモノハ成人ニハ認ムル能ハズ。而シテ初生兒ニ於テハ額面彎曲ニ於ケル右側第一彎曲中央部ガ骨盤矢狀彎曲頂ニ當ルモノ比較的二多キヲ見ル。(第十九表参照)

第十九表 (附表(四)参照)

骨盤部矢狀彎曲 頂相當部位	成人 (23例)	小兒 (3例)	初生兒 (18例)
上界ニ近キ部	1		
左Ⅰ彎曲ノ上方	1		
左Ⅰ彎曲ノ中央	2		
左Ⅰ彎曲下界	12	1	1
左Ⅱ彎曲中央	1		1
右Ⅰ彎曲中央	1		4
右Ⅱ彎曲中央	1	1	3
右Ⅱ彎曲下界	1		
右Ⅰ彎曲下部	1		1
正中上部	2		2
(矢狀面ニ鈍弓ノ 狀ヲナスモノ)			6

第十八表 (附表(四)参照)

高	サ	成人	小兒	初生兒
(Ⅰ・Ⅱ)S		1		
Ⅱ・S				1
Ⅱ・S		2		1
(Ⅲ・Ⅲ)S		2		1
Ⅲ・S		1	1	2
(Ⅲ・Ⅴ)S		5	1	3
Ⅴ・S		5		2
Ⅴ・S・I・C		4		3
I・C		3		
(Ⅰ・Ⅱ)C		1		
計		23例	2例	13例

抑々直腸矢狀彎曲ハ薦骨部彎曲ト會陰部彎曲トヨリナルヲ普通トスレドモ、初生兒ニ於テハ Takahasi (1888), Ijise (1902), Zuckerkandi (1890) 等ニヨルニ或ハ前方ニ向フ處ノ輕度ノ凹面ヲ形成スルカ、或ハ殆ンド眞直グナリトシ、Waldayer (1899) モ小兒及ビ初生兒ニ於テハ矢狀彎曲ハ少シトセリ。然ルニ予

二二〇耗
二四五耗
一例……………直腸強盈例

小兒二例ニ於テハ八〇耗及ビ一一〇耗ナリ。初生兒一九例調査ニヨルニ五〇耗乃至九〇耗其ノ平均七〇耗トス。即チ左ノ如シ。

四一五〇耗
五一六〇耗
六一七〇耗
七一八〇耗
八一九〇耗
一五例
一五例
一五例
一五例
一五例
計一九例、平均七〇耗

二、直腸會陰部ノ長サ

備考、以下直腸骨盤部並ニ直腸會陰部(或ハ肛門部)ト稱スルハ Waldeyer ノ區分法ニヨル。即チ前者ハ骨盤橫隔膜以上ノ膜以下ノ *pars perinealis* ヲ云フ。後者ハ骨盤橫隔

成人二四例調査ニヨルニ一二耗乃至三〇耗、平均一九・二耗トス。之レヲ細別スレバ左ノ如シ。

一二一五耗
一六二〇耗
二一二五耗
二六三〇耗
九例
九例
五例
一五例
計二四例、平均一九・二耗

初生兒一八例調査ニヨルニ五耗乃至一〇耗、平均六・七耗。即チ左ノ如シ。

五五耗
六六耗
七七耗
八八耗
九九耗
十耗
五例
四例
四例
三例
一例
計一八例、平均六・七耗

直腸ノ長サニ關シテハ Jossel u. Wulleyer, Schilze, Cunningham, 等ハ詳細ナル數字ヲ示サレドモ、其ノ述ブル處ヲ綜合スルニ約一二乃至一五糎ノ間ニアリ。之レヲ予ノ邦人例ニ比較スルニ稍々短キヲ知ル。邦人ノ直腸ノ長サヲ調査セルモノニ久保(六例)、杉田(八二例)兩氏ノ各報告アルモ何レモ Mesorectum ヲ是認セシモノナレバ予ノ調査ト比較スベクモアラズ。

直腸會陰部ノ長サニ關シテハ Wilder ハ二五糎乃至三〇糎トセルガ、予ノ例ヨリモ稍々長シ。初生兒ニ關シテハ直腸ノ長サニ就テ何等ノ記錄ヲ見ズ。

三、初生兒ノS字狀腸ノ長サ

S字狀腸ノ上界ハ *umbilicus* ノ方法ニヨリテ之レヲ測レリ。即チS字狀腸ヲ引キ上ゲテ屈曲スル處ヲ以テ其ノ下行結腸トノ境界トセリ。而シテ其ノ下界ハS字狀腸々間膜ノ終ル處ヲ以テセリ。且ツ測定ハ腸間膜ノ腹壁ニ附着セル部ニ添フテ自然ノ位置ニ於テセルニ次ノ如キ結果ヲ得タリ。

一〇〇—一三〇糎	三例
一三一—一五〇糎	七例
一五一—一六五糎	三例
計二三例、平均一二六・五糎	

第七項 S字狀腸ト直腸トノ界ニ於ケル狀態

一、内腔ノ廣狹ニ就テハ成人二三例、小兒二例ニ就テ見ルニ此ノ境界部ハ通常他ノ部ヨリモ狹キコト多シ。即チ狹キモノ二二例、廣キモノ三例トス。而シテ其内最モ狹キモノ八例ニ於テハ拇指頭大乃至鉛筆ノ太サ大ナルヲ見ル。(附表四参照)

二、境界部上下ニ於ケル腸内腔ノ關係ニ就テハ直腸並ニS字狀腸移行部ニ接近セル兩者ノ内腔狀態ヲ見ルニ移行部狹キ場合ニ於テ云ヘバ、上下共廣キモノ四例、上部廣クシテ下部狹キモノ一例、上部狹クシテ下部廣キモノ四例、上下共狹キモノ一三例ナリ。次ニ移行部廣キモノ三例ニ就テ見ルニ何レモ上下共廣シ。之レヲ年齡の關係ニ影響アルカヲ見ル

ニ、移行部狹キ二二例中(四〇歳以上八例、三九歳以下一二例)上下共狹キモノハ老者ニ五例、壯者ニ六例ヲ數フ。上下共廣キモノハ兩者共各二例宛ニシテ上廣、下狹ノモノ老者ニ認メザレドモ壯者ニ一例アリ。上狹、下廣ノモノ老者ニ一例、壯者ニ二例アリ。(附表四參照)

Otis ニヨレバ直腸上部ハS字狀腸ヨリ廣シト云ヒ、Baur (zit. nach Otis) ニヨレバ直腸上界ハ屢々狹窄ヲ呈スト云ヘリ。Paterson ニヨレバ直腸上界ニハ輕度ノ狹窄ヲ常ニ見ルガ甚ダシク狹キモノモ稀ナラズトセリ。Merkel ニヨレバ直腸上界ニ狹窄ヲ呈セルモノヲ見タリト云ヘリ。

第八項 直 腸 柱

直腸柱ハ硬化屍ニ於テハ完全ニ保存セラレシモノハ甚ダ少シ。之レ肛門内「タンポン」挿入其他ノ事情ニヨルナラン。之レヲ完全ニ觀察シ得タル成人六例、小兒一例ニ就テ見ルニ數ニ於テハ六乃至一〇本ニシテ、六本二例(No. 3, 4)、七本一例(No. 32)(但シ小兒)、九本二例(No. 4, 98)、一〇本一例(No. 6, 99)トス。長サニ於テハ二乃至一五耗ニシテ長短種々ノモノヲ見ル。尙ホ之レヲ細別スレバ左ノ如シ。(第二十一表參照)

第二十一表

No.	長キモノ		短キモノ	
	數	長サ (耗)	數	長サ (耗)
4	7	7	2	2
5	3	10	2	2
6	7	7	3	3
42	4	15	2	6
32	7	3-5	—	—
98	6	12-15	3	5-7
99	6	7-10 (幅・2)	4	5-6 (幅・2)

直腸柱ニ關シテハ諸家 (Buschke, Bartelchen, Jössel u. Waldeyer, Cunningham) ノ記載ヲ見ルニ調査例數ヲ舉ゲザレドモ、之レヲ綜合スルニ約四乃至一八本(數)、八乃至一四耗(長サ)ト云フニ在リ。邦人ニ於テハ久保氏ガ四例ニ於テ六乃至一五本(數)、二乃至一八耗(長サ)ト記載セリ。

第九項 直腸前後徑並ニ "Sacculi" 及 "Ampulla"

ニ就テ

一、直腸前後徑

直腸骨盤部ノ下部乃至肛門部ニ於ケル最モ太キ部ニ於テ直腸前後徑ヲ計測ス

(凡テ外圍ノ直徑ヲ以テス。)即チ前後徑ハ正中斷面ニ於テシ、横徑ハ正中斷ニ於テ左右別々ニ直腸ノ内腔ヲ測リ、之レニ壁ノ厚サヲ加算セリ。予ノ調査セル成人二四例中虚状態ニテハ前後徑二〇耗、横徑三五耗ナルモノ(No. 43)、前後徑一五耗、横徑三五耗ナルモノ(No. 41)等ヨリ盈状態ニテハ前後徑五〇耗、横徑九〇耗ナルモノ(No. 11)、前後徑六〇耗、横徑七〇耗(No. 40)ナルモノ等ニ見ルガ如ク、其ノ虚盈何レノ場合ニ於テモ前後徑ニ差アリ。

前後徑ト横徑トノ比ヲ見ルニ(成人二四例、小兒二例ニ於テ)一對一・一乃至一對一・五ナルモノガ八例、一對一・六一對二・五ナルモノガ七例、一對二・六乃至一對三・五ナルモノガ一例、一對四ナルモノガ一例ニシテ、凡テ前後徑ハ横徑ヨリモ短シ。一般ニ膨脹盈ナルトキニハ直腸ノ横徑ハ増大スルコト(No. 4, 43)ヲ認ム。又直腸ガ全ク收縮虚状態ニ於テハ前後徑ト横徑トノ比ハ小ナリ(No. 41, 43)。直腸著シク膨滿セル場合ニ於テモ亦同様ノ關係ヲ示ス。即チ兩者ノ比ガ一對一乃至一對一・五トス。八例中二例ハ前者ノ場合ニシテ、六例ハ後者ノ場合ナリ。虚盈ノ中間ニアルモノハ多クハ横徑ハ前後徑ノ三倍内外ナリ。

直腸ガ圓柱狀ナリトセルハ Krause, Sobotta, Rauber 等ノ述ベタル處ナレドモ Otis ハ二屍體ニ就テ直腸鏡ノ所見上ヨリ直腸ガ前後ニ扁壓セラレシ状態ニアルコトヲ發表セリ。勿論直腸肛門部ニ於テハ左右ニ扁壓セラル、ハ Waldeyer, Bodenhamer, Symington 等ニヨリテ記載セラレシ處ニシテ、予ノ各例共明カニ之レヲ認ムル處ナリ。

1) „Sacculi“ 並リ „Ampulla“ ニ就テ

直腸各横皺襞ニ相對スル壁ガ囊状態 („Sacculi“) ヲ形成スルコト恰モ結腸ノ „Haustra“ ノ如シトハ Otis ノ發表セル處ナルガ、Bodenhamer ニヨレバ最下位ノ横皺襞部ノ右側壁ニ囊状態形成ヲ見タリト云ヒ、Waldeyer モ亦之レヲ認ムト記載セリ。Merkel ニヨレバ直腸盈状態ニ於テモ亦之レヲ認ムト云ヘリ。予ノ調査セシ處ニヨレン No. 2, 11, 20, 51 等ニ於テ之ヲ認メタリ。是等ハ何レモコールラウシユ氏横皺襞ノ部ニシテ、其ノ上下共直腸盈状態ノモノトス。

„Ampulla“ ナル名稱ハ何レノ解剖書ニモ記載セラル、處ナレドモ、其ノ見解極メテ不定ナリ例ヘバ Bodenhamer 曰

ク、直腸膨大部ハ直腸骨盤部ノ下部ニテ前方ニ膨隆セル嚢狀ヲ形成スト。
 Waldeyer 曰ク、Ampulla recti ナルモノハ直腸骨盤部ノ中央ヨリ下ヲ占メ
 薦骨乃至尾閭骨ノ高サニアリテ、直腸盈時ニ著明トナル。糞便ハ此處ニ停
 滯シ爲メニ、Ampulla “即チ Kothblase ナル名稱ヲ附セルナリト。且ツ附
 言シテ曰ク初生兒及ビ小兒ニハ斯カルモノハ認メズト。Merkel ニヨレバ直
 腸ヲ Pars ampulla recti ト Pars analis recti トニ區分スレドモ虚時ニハ其
 ノ境界不明ナリトセリ。Rauber-Kojseh ノ解剖書ニハ肛門ノ稍々上部ニシ
 テ直腸ガ擴張ヲ呈スル部分ヲ Ampulla recti ト稱スト記載セリ。Comning ノ
 局所解剖書ニハ Ampulla recti = Pars pelvina = Flexura sacralis, Pars analis
 recti = Pars perinealis = Flexura perinealis ト記載セラル。Sobotta 曰ク Pars
 analis recti ノ上方ハ紡錘狀ニ擴張ス、之レヲ Pars ampullaris トスト。
 Bodenhamer ハ又曰ク初生兒ニハ Ampulla ハ缺如シ、糞便ヲ隨意的ニ保留
 スルコトヲ得ル年齢ニ至リテ之レヲ生ズト。

予ハ特ニ “Ampulla” ナル名稱ノ必要ヲ認メザルヲ以テ之レヲ使用セ
 ズ。然レドモ成人ニ於テ直腸下部ガ充盈シテ此所ニ所謂 “Ampulla” ヲ形
 成セルモノ一々例ヲ見、内四例 (No. 26, 27, 40, 46) ニ於テハ特ニ著シキヲ
 認メタリ。此他ニ直腸全體ニ亘リテ膨滿セルハ三例 (No. 2, 11, 20) トス。
 初生兒ニ於テモ二例 (No. 50, 52) ハ下部ニ膨滿セルヲ認メ、一例 (No. 51)
 ニ於テハ全體ニ亘リテ著明ニ膨滿シ且ツ横皺襞ハ著明ニ現レタルヲ見ル。

附 表 (五)

直 腸 横 皺 襞 ニ 就 テ (尺度ハ耗トス)												
番 號	肛門ヨリ上ニ向ッ	タル横皺襞ノ順位 テ肛門上ニ向ッ	肛門距離 後壁ニ沿フテ測レル距離	直線的ノ距離	横皺襞ノ幅	前		ドウグラス氏腔	壁ニ對スル高サ 各皺襞ノ骨盤後	腸ノ虚盈状態 上下ニ於ケル直主ナル皺襞部ノ	内腔狭窄状態 15×12ハ×フ (前後徑) (左右徑) 左示 (耗)	ノ關係 額面彎曲部ト 窄形成部ト直腸 横皺襞ニヨル狭
						右	左					
						發生ノ側	形 狀					
2	I		20	18	5	左	①	—	(Ⅲ・Ⅳ) S Ⅲ S Ⅱ S	上下盈		
	Ⅱ		25	23	5	左	①	—				
	(Ⅲ)		70	60	15	左	①	上方へ30				
	Ⅳ		90	70	3	右前	①	—				
	V		110	80	10	右前	①	—				

3	I II (III)	30 65 80	30 60 70	3 5 10	右後 ① 左後 ① 左 ①	— 同高	III S 下端 V S · I C	上虚下盈	小指頭大	左 I 下
4	I (II) III	20 45 75	15 40 70	10 20 15	左前 ① 左 {前後 ① 右 ①	同高 上方 ~ 40	III C V S · I C	上虚下盈	15×12環狀	左 I 直下
5	I (II) III	30 42 90	25 37 75	15 20 10	左 {前後 ① 右 ① 左 ①	同高 上方 ~ 60	III C	上下稍盈		
6	I II (III) IV	20 34 50 60	20 30 45 55	5 12 20 20	左 ① 左 ① 右 ① 左 ①	35下 17下 同高 15上	III · C 下 I C	上下稍盈	不明	不明
7	I (II)	45 60	40 50	2 15	左 ① 左後 ①	同高	V S	上下盈		
8	I (II) (III)	30 50 45	30 45 15	3 15 15	左 ① 右後 ① 左後 ①	{ 同高 同高	III C	上下盈	15×12(狹)	左 II 下
9	I (II) III	50 65 80	40 60 75	10 10 7	左 ① 右 ① 左 ①	20上方	不明	上下盈		
10	(I) II III	35 50 70	30 50 65	10 7 7	後 {右左 ① 右 ① 左 ①		會陰部中央 III C			
11	(I) (II) (III)	80 105 140	80 97 110	22 24 23	左 {前後 ① 右前 ① 左 {前後 ①	同高 25上方 40上方	V S (III · IV) S (I · II) S	上下虚		

13	I (II)	45 65	40 50	10 12	右後 ⊙ 左後 ⊙	12下方 同高	II C	上下盈	拇指大	右 I 中央
14	I (II) III	35 50 60	30 45 55	5 15 10	左 ⊙ 後 { 左 S 狀 ⊙ 右 ⊙	同高 20上方	II C (I II) C	上盈下虛	示指頭大 (環狀)	左 I 直下
15	I (II) (III)	75 87 100	65 75 85	2 10 10	右後 ③ 右後 ⊙ 左後 ⊙	15下方 同高 15上方	(IV V) S (I II) C III C	上下盈	示指頭大	右 I 直下
20	I (II) III	60 90 170	60 85 150	12 25 13	後 { 右 S 狀 ⊙ 左 狀 ⊙ 左 ⊙	40下方 同高 40上方	(I II) C (I II) S	上下盈		
23	(I)	80	80	5	右 ⊙	同高	不 明	上虛下盈	拇指大	左 I 中央
25	(I) II III	60 78 110	55 70 80	13 3 12	後 { 右 ⊙ 左 ⊙ 左 ⊙	10上方 25上方 40上方	II C V S I C (IV V) S	上下盈	拇指大	左 I 直下
26	I II (III)	70 75 85	60 70 80	2 7 7	左 ⊙ 左後 ⊙ 左後 (環狀) ⊙	30上方 30上方 55上方	V S I C IV S	上虛下盈	環狀鉛筆大	左 I 下界
27	I (II)	60 85	55 70	3	右後 ⊙ 左後 (環狀) ⊙	10下方 同高	V S I C V S	上虛下盈	鉛筆大 (環狀)	左 I 下界
40	I (II)	100 150	95 115	5 15	左 ⊙ 後 { 左 ⊙ 右 ⊙	35上方	II S	上虛下盈	示指頭大	左 I 直下
41	無シ	(全部收縮虛)								
42	I (II) III	36 60 105	30 50 90	12 15 10	左 ⊙ 右 ⊙ 左 ⊙	同高 40上方	(I II) C (IV V) S	上下稍盈	示指頭大 (環狀)	左 I 中央
43	無シ	(全部虛)								

44	(I) II	65 90	60 80	25 10	左 { 前後 ⊙ ⊙	同高 40上方	I.C V.S	上虚下盈		
45	無シ									
46	(I)	55	45	10	左 { 前後 ⊙ ⊙	20上方	II.C	上虚下盈	拇指大	左 I 下界
32	I (II)	38 48	35 45	5 10	左 ⊙ 右 ⊙	同高	V.S I.C	上下盈		
31	I (II)	30 40	20 30	7 2	右 ⊙ 左 ⊙	7上方	(II. III)C	上下盈	狭	
51	I (II) III	19 25 53	17 23 40	2 7 3	左 { 前後 ⊙ ⊙ 左 ⊙	同高	V.S I.C (I. II)S	上下盈		
64	I (II) III		20 25 40	3 2 2	右 ⊙ 右 ⊙ 左 ⊙	同高 5上方	V.S. I S V.S. I C (II. III)S	上下盈	狭	